

広野ゆうじの

# コッコちゃん通信

第5号

2026年  
1月18日発行

議 | 会 | 報 | 告

発行者 / 広野ゆうじ事務所 雲南市木次町寺領275番地  
TEL 0854-42-2524 FAX 0854-42-3214 携帯 090-1687-5616  
メールアドレス y-hirono@bs.kkm.ne.jp ホームページ https://hironoyuuji.jp



令和8年（2026年）がスタートしました。皆様には、健康やかな新年を迎えられたこととお察し申し上げます。

昨年は、世界においては、地球温暖化問題の継続、AI（人工知能）の更なる進化、トランプ大統領の自国第一主義の台頭、ウクライナ戦争の終焉への動き等があり、国内では、人口減少、少子高齢化、高市政権の誕生、インフレによる物価高や人件費の高騰、人手不足等様々な問題を抱えながら新年を迎えました。

たった、1日で年が変わるだけなのですが、何故か、新たな気持ちになります。

様々な問題、課題はたくさんあると思いますが、今日1日を大切に、1年先、5年先、10年先、百年先を思い描き、一歩一歩しっかりと進んでいきたいものです。

今年一年の、皆様の御多幸をお祈りいたします。



大空羽ばたくコウノトリ



令和7年12月定例会が12月4日から16日間の会期で開催されました。条例その他20件、予算11件、同意5件、報告3件が上程され、慎重審議の結果、原案通り可決・承認・同意しました。又、請願1件が提出されましたが、賛成少数で不採択となりました。なお、次期一般廃棄物処理施設整備調査特別委員会も設置され、私も委員として、この重要課題に取り組みで行きます。

## 令和7年度12月 一般会計補正予算

327億2,799万円（補正額 5億6,981万円増）  
（対前年度 42億2,153万円減）

### 主な補正予算

除雪総務管理事業 1億7,737万円（補正後 2億5,069万円）  
雲南市神楽の宿屋根改修事業 4,606万円  
（債務負担行為補正 令和7年～令和8年）  
原子力災害対策事業 814万円（補正後 4,614万円）  
（Jアラート新型受信機等の更新等）

## 次期一般廃棄物処理施設整備調査特別委員会（9人）

委員長	佐藤 隆司
副委員長	中林 孝
委員	原 良太
	吾郷 希穂
	石原 忍
	廣野 祐二
	多賀 法華
	上代 和美
	原 祐二

請願1件提出され、賛成少数で不採択

請願「政府に所得補償（直接支払い）制度の実現を求める請願書」に反対しました。

この請願の趣旨には、「生産コスト上昇を販売コストに転嫁できないことにより営農が脅かされている事」「気候危機により、あらゆる耕畜種が打撃を受けたため、その土台作りの必要性」「農政により、安心した米作りに専念できない点」「米の価格高騰に対して安定した米価の必要性」の4点が訴えられています。日本の様な資本主義社会の中では、農畜産物価格は、市場価格を基本とすべき事、それぞれの農畜産物により、その土台や状況が異なる事、所得補償による米価の安定は考えにくい事、又、現在、特に中山間地農業は、



中山間地農業への支援が必要

その構造改革が必要で、それをふまえた上で、何らかの支援が必要との趣旨で、反対意見を述べ、結果、賛成3反対14で不採択となりました。農業政策については、新たに政府に意見書を提出することが必要と考えています。

## 広野ゆうじの 一般質問



一般質問 アーカイブ



質問1 令和7年産の稲作の状況について

問 JAしまねへ出荷された雲南市の令和7年産米の検査数量は、前年とほとんど変わらず、品種別の割合は、コシヒカリが微減で33・6%、きぬむすめ47・8%、つや姫15・4%と微増であった。又、一等米比率は、コシヒカリが34・2%に低下、きぬむすめとつや姫が82%と95%となっている。概算金についても、この3品種を比べて、コシヒカリの優位性がなくなっていると思う。品種選択への力強い政策誘導が必要と考えるが、どうか。

答 栽培ごよみ等により、稲作農家に指導を行っている。島根

県が示している米10アール当たりの大まかな総収益は、コシヒカリが25万4千円、つや姫が25万円、きぬむすめが27万2千円となっている。地域によっては、価格においてコシヒカリが必ずしも優位であるとは言えない状況と認識している。情報提供、分析等行つて、適切な品種選択が行われるように支援が必要だと考えている。



時代に合った米の品種選択を

## 質問2 脱炭素プロジェクトについて

**問** 雲南市の脱炭素の方向性は理解できるが、このプロジェクトにより、財政への影響、市民生活への影響はどうか。又、市が出資している(株)うなん共創エネルギーの10年後の売上と従業員数はいくらで、その経営や電気料金の安さは大丈夫か。

**答** 公共施設への太陽光発電や蓄電池の導入は、※P P A事業として、うなん共創エネルギーが国の補助金や自己資金等により事業を進めている。省エネに関しても、LED照明化等で、将来の電気



代の範囲内でできることや、国の補助金を利用し財政負担が生じないよう配慮しながら進めている。市民や事業所の取組に対しても国の補助金活用で自己負担が抑えられるよう努める。うなん共創エネルギーの10年後の売上高は、脱炭素先行地域選定を前提で約10億円、従業員数10名程度で計画されている。経営については、市有公共施設の電力切替えとP P A事業により収益は担保されている。電気料金については、高くなる可能性はあるが、雲南市が目指す「再生可能エネルギーで環境負荷を低減する」という趣旨を理解していたら、お願いをしたい。ただし、選択するのはあくまでも住民である。

**問** 廃食油の高純度バイオディーゼル化やキエーロコンポストによる生ごみ等の減量化は、市民にメリットがあるか。又温室効果ガス排出量の見える化が選定されなかった場合の影響はあるか。

**答** 廃食油やコンポストの事業は、これらを通じて、市民主体で資源循環が進むことこそが最大の成果である。市全体の温室効果ガス排出量の見える化は困難。市が取り組

## 質問3

### 介護事業について

む事業や市民の行動が変化として見えるように、できるところから進めたい。脱炭素先行地域に選定された場合は、カーボンニュートラル(温暖化ガス実質ゼロ)が、2050年より前倒しができるが、選定されなかった場合でも、計画通り、2050年カーボンニュートラルの目標は変わらない。有利な交付金、補助金の活用も模索し、財政負担を極力抑制し、進めていく。

12月定例会中に、脱炭素先行地域の選定から外れたとの報告がありました。よって、先行地域選定による、5年間で最大50億円の交付はなくなるため、答弁にあつた通り、他の有利な交付金、補助金利用により、脱炭素化を進めていくこととなります。

**問** 要支援・要介護認定者への支援は充分行き届いているか。

**答** 特別養護老人ホーム等の施設サービスにおいて一定程度待機者がいる以外は、全体的に充足している状況。

**問** 国で検討されている、被保険者の自己負担増加、要介護1、2認定者の総合事業への移行、ケアマネジメントの利用負担の導入についてどう考えているか。

**答** 自己負担増加とケアマネジメントの有料化については、能力に応じて負担する必要があると考えるが、介護サービスの利用控えにならないよう、国に制度設計をしてもらいたい。又、総合事業への移行については、事業者の経営を圧迫している現状から、総合事業に係る介護報酬の見直しを検討すべきと考える。



安心できる介護政策を

**問** 介護事業において、雲南市は年間約8億円の負担金を雲南広域連合へ支払っている。連合長である市長が、3市町の連携を取りながら、しっかりリーダーシップをもって進めていかなければならないと思うが見解を伺う。

**答** 広域連合のトップとして、3市町の意見も尊重しながら、リーダーシップを発揮し、議論を進めていく。

**問** 介護事業者の経営状況をどうとらえているか。介護事業者も他産業と同様に、合併等を視野に入れた政策誘導が必要と思つて見解を伺う。

**答** 介護事業者の経営が厳しいことは理解しており、国の経済

政策を見ながら、交付金も活用した支援の内容を精査中で、検討したい。又、人材確保・定着支援の検討も含めて支援したい。介護分野を含めた福祉分野における合併や事業譲渡、法人連携等について、既に国において政策誘導がなされている。各法人から個別に意見聴取しながら、連携の在り方について関与していく必要がある。

### 編集後記

昨年の11月で、雲南市議会議員としての生活が1年を経過しました。市議会定例会も5回を経験し、至らない点も多々あつたかと思ひますが、一生懸命取り組みできたつもりです。何より、市民の皆様のご支援、ご指導をはじめ、市執行部や職員の皆様、市会議員の皆様等、多くの皆様のご指導、ご鞭撻のおかげと感謝しているところです。

新しい年を迎え、これまでの取組、行動も反省しつつ、「笑顔輝く 幸せな雲南」へ向けて、一步一步前進していきたいと思ひますので、今後とも、よろしくお願ひいたします。

廣野祐二

